

砂糖の価格調整業務実績について (令和4砂糖年度)

特産調整部、特産業務部

はじめに

当機構では「砂糖及びでん粉の価格調整に関する法律」に基づき、輸入糖、異性化糖および輸入加糖調製品の買入れ・売戻しにより調整金を徴収し、それらを財源として国内のサトウキビ生産者やてん菜糖・甘しや糖の製造事業者に交付金の交付などの支援を行うことで内外価格差を調整し、国内の砂糖の安定的な供給の確保を図っている。

本稿では、令和4砂糖年度（令和4年10月1日～令和5年9月30日<以下「4SY」という>）に

おける砂糖の価格調整業務実績などについて取りまとめたので、報告する。

1 砂糖の価格調整業務における収支

4SYの収入については、輸入糖は、令和5年5月8日から新型コロナウイルス感染症（COVID-19）について、感染症法上の位置付けが「5類感染症」に変更となったことに伴う人流増による経済活動の回復により輸入量は増加したものの、砂糖の国際相

表1 4SY収支および前年度比較

(単位：億円)

	令和2SY	3SY	4SY	対3SY増減
収入	552	486	421	▲ 66
輸入糖	379	293	220	▲ 73
加糖調製品	67	84	95	11
国費	107	109	106	▲ 3
支出	623	595	541	▲ 53
てん菜糖	157	141	152	11
甘しや糖	98	95	78	▲ 17
てん菜（国庫納付）	151	132	106	▲ 26
さとうきび	217	225	205	▲ 20
その他	1	1	1	0
単年度収支	▲ 71	▲ 109	▲ 121	▲ 12
期末残高	▲ 336	▲ 445	▲ 566	▲ 121

注：ラウンドの関係で合計および増減が一致しない場合がある。

場の上昇および円安の進行により調整金単価が低下したことに伴い、前SYより73億円減の220億円となった（表1）。

一方、輸入加糖調製品については、前SYより11億円増の95億円の収入となったものの、国費も含む収入全体では前SYより66億円減の421億円となった。

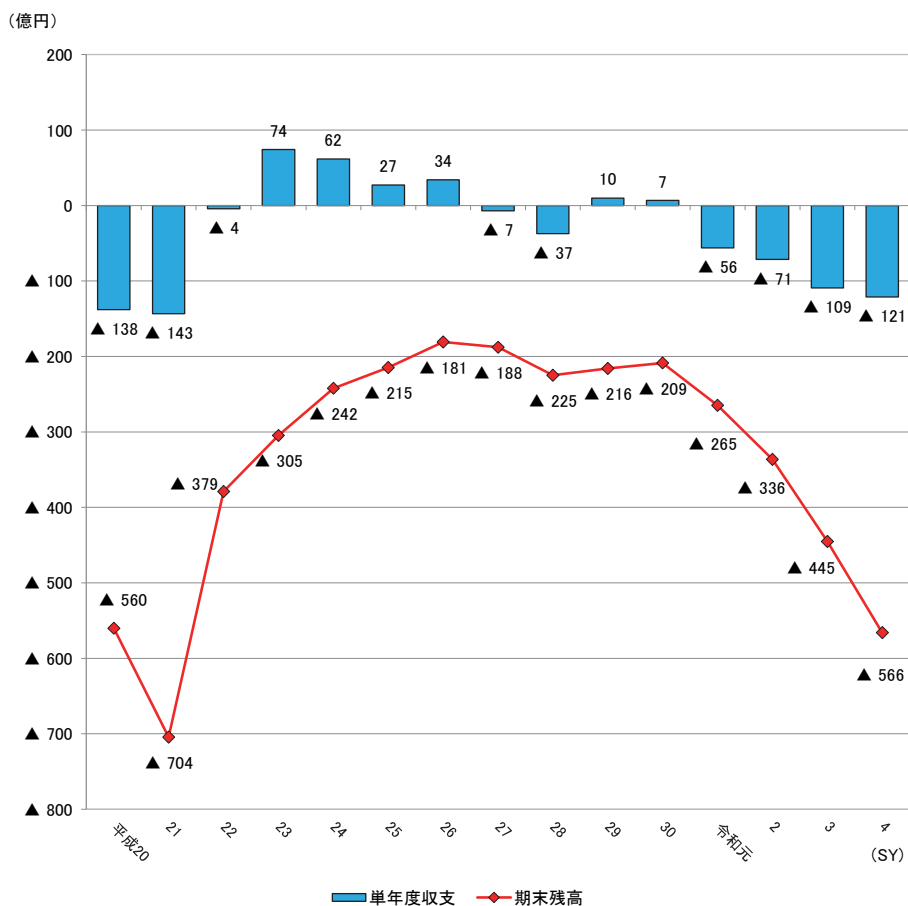
支出については、てん菜糖は交付単価金が上昇したものの、甘しや糖の交付金単価の低下、てん菜の国庫納付金額が減少したことなどから、全体として

は前SYより53億円減の541億円となった。

これらの結果、4SYの収支は、121億円の赤字（前SYは109億円の赤字）となり、前SYに引き続き、大幅な単年度赤字となるとともに、期末残高はマイナス566億円（3SY期末時点で445億円の赤字）と大変厳しい状況となった（図1）。

また、5SY（令和5年10月1日～令和6年9月30日）においても、引き続き厳しい収支状況が続くことが見込まれており、期末残高の動向などについて注視が必要である。

図1 砂糖の調整金収支の推移



注1：ラウンドの関係で単年度収支と期末残高が一致しない場合がある。
注2：平成22SYに糖価調整緊急対策交付金329億円を充当（単年度収支には含まない）。

2 調整金徴収業務

(1) 4SYの指標価格など

4SYを含む直近3年間の指標価格などは表2の通り。

表2 直近3年間の指標価格など

	令和2SY	3SY	4SY
砂糖調整基準価格 (円/トン)	153,200	153,200	153,200
前年比 (円)	±0	±0	±0
指定糖調整率 (%)	37.00	37.00	37.00
前年比 (ポイント)	±0	±0	±0

注1：令和2年9月30日農林水産省告示第1846号、令和3年9月30日農林水産省告示第1637号および令和4年9月30日農林水産省告示第1494号によって告示された基準価格。

注2：砂糖調整基準価格とは、輸入粗糖と国内産糖との価格調整の基準となる金額。

注3：指定糖調整率とは、粗糖の輸入者から徴収する調整金の負担水準を定める率。内外の粗糖のコスト格差に当該率を乗じて、調整金単価を算定。

(2) 砂糖の需要と供給

令和5年12月に農林水産省が公表した砂糖及び異性化糖の需給見通し（以下「需給見通し」という）

によると、4SYの砂糖の需給（実績）は表3、表4の通り。

表3 砂糖の需給（実績）

（単位：千トン）

項目	期間	令和3砂糖年度	令和4砂糖年度				計	
			10-12月	1-3月	4-6月	7-9月		
消費量	分みつ糖	1,746	458.8	414.5	439.1	435.8	1,748	
	含みつ糖	34	7.0	10.0	8.4	6.9	32	
	合計	1,780	465.8	424.5	447.5	442.7	1,781	
供給量	国内産糖	分みつ糖	783	371.2	315.1	7.6	-	694
		含みつ糖	9	1.2	5.9	0.9	-	8
		小計	792	372.4	321.0	8.5	-	702
	輸入糖	分みつ糖	953	295.5	154.1	320.6	283.8	1,054
		含みつ糖	7	1.3	2.1	1.9	0.9	6
		小計	960	296.8	156.2	322.5	284.7	1,060
	合計	分みつ糖	1,736	666.7	469.2	328.2	283.8	1,748
		含みつ糖	16	2.5	8.0	2.8	0.9	14
		小計	1,752	669.2	477.2	331.0	284.7	1,762
期末在庫		377	577.0	620.6	498.7	342.8	343	

資料：農林水産省「令和5砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第2回）」

注1：砂糖年度とは、10月から翌年9月まで。

注2：輸入糖の分みつ糖供給量は、機構売買数量である。

表4 砂糖及び異性化糖の需給総括表

砂糖 年度	総需要量		国内産糖生産（供給）量					輸入量 千トン	1人当たり 消費量 kg	異性化糖 需要量 千トン
	千トン	対前年比 %	千トン	てん菜糖		甘しゅ糖 千トン				
				白糖 千トン	原料糖 千トン					
昭和50	2,877	5.6	449	224	224	-	213	2,351	25.6	-
60	2,655	0.5	870	574	574	-	285	1,779	21.9	617
平成2	2,643	0.4	865	644	527	116	212	1,693	21.3	725
7	2,435	▲ 1.5	842	650	491	159	183	1,606	19.4	733
17	2,165	▲ 2.9	839	699	452	247	132	1,326	17.0	790
18	2,181	0.7	800	643	451	192	148	1,346	17.1	801
19	2,197	0.7	861	683	454	229	169	1,380	17.2	824
20	2,136	▲ 2.8	878	683	451	232	186	1,222	16.7	784
21	2,099	▲ 1.7	861	683	433	250	168	1,263	16.5	803
22	2,095	▲ 0.2	655	490	424	66	156	1,431	16.4	806
23	2,039	▲ 2.7	674	564	446	118	104	1,375	16.0	812
24	2,026	▲ 0.6	691	561	416	145	122	1,338	15.9	827
25	2,006	▲ 1.0	687	551	410	140	129	1,284	15.8	812
26	1,971	▲ 1.7	737	607	410	197	122	1,220	15.5	792
27	1,983	0.6	813	676	423	253	129	1,235	15.6	818
28	1,957	▲ 1.3	688	505	400	105	173	1,214	15.4	832
29	1,921	▲ 1.8	794	656	432	224	128	1,111	15.2	832
30	1,895	▲ 1.4	745	614	401	213	120	1,183	15.0	824
令和元	1,779	▲ 6.1	788	650	415	235	127	1,030	14.1	785
2	1,769	▲ 0.6	783	630	384	246	142	1,025	14.1	750
3	1,803	1.9	792	639	386	252	144	984	14.4	760
4	1,804	0.0	702	562	399	163	132	1,065	14.5	767
5(見通し)	1,817	0.7	591	456	390	66	128	1,185	14.6	786

資料：農林水産省「令和5砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第2回）」

注1：分みつ糖は精製糖ベースの数量、含みつ糖については製品ベースの数量、異性化糖は標準異性化糖（果糖55%ものの固形ベース）に換算した数量である。

注2：国内産糖生産量と輸入量の合計と総需要量の差は在庫変動である。

注3：国内産糖生産量の合計には含みつ糖生産量を含む。

注4：総需要量は、分みつ糖消費量、含みつ糖消費量および工業用などの合計である。

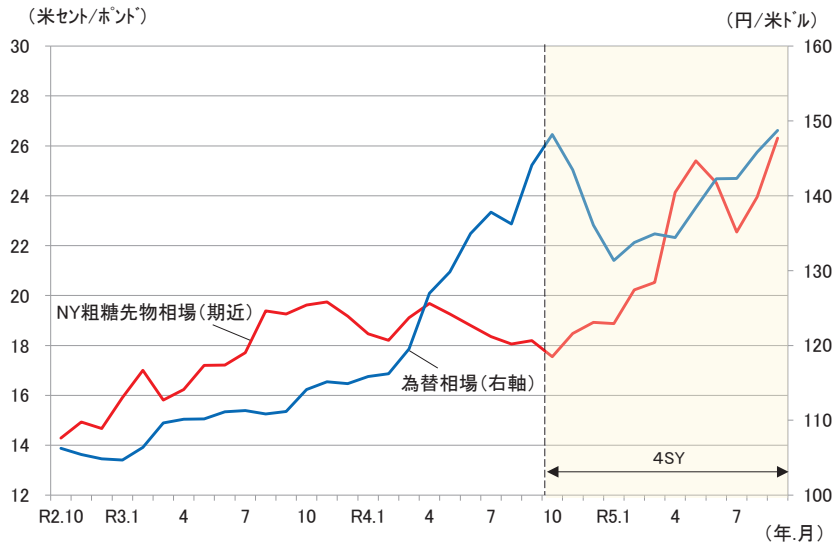
注5：輸入量は、通関実績の数値である。

(3) 国際相場などの動き

ニューヨーク粗糖先物相場の4SYの動きは、SY当初の令和4年10月中旬にはブラジルの砂糖増産の見通しから1ポンド当たり17.58米セントまで値を下げたものの、その後、ブラジルやインドの減産見通しを受け、一貫して上昇傾向が続き、令和5年

4月28日には、26.99米セントと11年ぶりの高値を記録した。その後、ブラジルの増産見込みにより、6月下旬には22米セント台まで下落したものの、インドおよびタイの不作などを受け再び価格が上昇し、9月の月平均価格は26米セント台で4SYを終えた（図2）。

図2 ニューヨーク粗糖先物相場および為替相場の推移（月平均）



(4) 粗糖、加糖調製品糖および異性化糖の平均輸入価格など

4SYにおける粗糖、加糖調製品糖および異性化糖の平均輸入価格は表5～7の通り。特に、第4四

半期は粗糖の国際相場が上昇し為替相場も円安傾向が続いたこともあり、粗糖の平均輸入価格はトン当たり10万円台まで上昇した。

表5 粗糖の平均輸入価格など

期 間	粗糖 平均輸入価格 (円/トン)	粗糖 (円/トン)				粗糖NY相場		為替 (円/米ドル)	
		買入価格	売戻価格	軽減額	調整金単価	(米セント/ポンド)	(米ドル/トン)		
令和 2SY	令和2年 10月～12月	44,640	44,640	81,807	3,000	37,167	12.27	270.50	107.32
	3年 1月～3月	48,340	48,340	84,138	3,000	35,798	14.44	318.32	105.68
	3年 4月～6月	53,150	53,150	87,169	3,000	34,019	16.23	357.70	106.44
	3年 7月～9月	57,980	57,980	90,211	3,000	32,231	16.70	368.06	110.34
3SY	3年 10月～12月	63,840	63,840	93,903	3,000	30,063	18.62	410.52	111.08
	4年 1月～3月	66,840	66,840	95,793	3,000	28,953	19.52	430.34	114.41
	4年 4月～6月	66,090	66,090	95,321	3,000	29,231	18.57	409.39	116.55
	4年 7月～9月	76,740	76,740	102,030	3,000	25,290	19.35	426.59	129.34
4SY	4年 10月～12月	82,460	82,460	104,734	3,900	22,274	18.20	401.24	138.50
	5年 1月～3月	88,910	88,910	108,797	3,900	19,887	19.08	420.64	143.59
	5年 4月～6月	87,670	87,670	108,016	3,900	20,346	20.67	455.69	133.69
	5年 7月～9月	104,290	104,290	118,487	3,900	14,197	24.88	548.50	137.09

表6 加糖調製品糖の平均輸入価格など

期 間		加糖調製品糖 平均輸入価格 (円/トン)	加糖調製品糖 標準価格 (円/トン)
令和2 SY	令和2年 10月～12月	114,838	206,915
	3年 1月～3月	118,909	210,764
	3年 4月～6月	121,707	215,768
	3年 7月～9月	123,458	220,793
3SY	3年 10月～12月	128,243	233,914
	4年 1月～3月	136,482	237,111
	4年 4月～6月	136,918	236,313
	4年 7月～9月	151,164	247,665
4SY	4年 10月～12月	150,111	231,378
	5年 1月～3月	152,752	237,548
	5年 4月～6月	150,046	236,362
	5年 7月～9月	163,534	252,259

表7 異性化糖の平均供給価格など

期 間		平均供給価格 (A) (円/トン)	異性化糖 標準価格 (B) (円/トン)	B-A
令和2 SY	令和2年 10月～12月	123,325	120,452	▲ 2,873
	3年 1月～3月	130,626	122,688	▲ 7,938
	3年 4月～6月	141,653	125,604	▲ 16,049
	3年 7月～9月	151,610	128,531	▲ 23,079
3SY	3年 10月～12月	147,031	132,883	▲ 14,148
	4年 1月～3月	152,777	134,698	▲ 18,079
	4年 4月～6月	161,557	134,244	▲ 27,313
	4年 7月～9月	178,340	140,702	▲ 37,638
4SY	4年 10月～12月	183,071	146,491	▲ 36,580
	5年 1月～3月	184,982	150,390	▲ 34,592
	5年 4月～6月	177,638	149,645	▲ 27,993
	5年 7月～9月	172,217	159,710	▲ 12,507

注：異性化糖の平均供給価格が異性化糖標準価格を下回った場合に機構売買を行う。

(5) 売買実績

ア 輸入糖

4SYの輸入糖の売買数量は前SY比10.8%増の109万8000トンとなった(表8)。人流増に伴う経済活動の回復による国内需要の増加により売買数

量は増えたものの、粗糖の国際相場上昇および円安に伴う平均輸入価格の上昇により調整金収入が減少したことから、売買差額は前SY比25.0%減の219億7200万円と大幅に減少した。

表8 輸入糖・輸入加糖調製品の売買実績

SY	輸入糖		輸入加糖調製品		売買差額合計 (百万円)
	売買数量 (千トン)	売買差額 (百万円)	売買数量 (千トン)	売買差額 (百万円)	
令和2	1,064	37,880	427	6,669	44,549
3	991	29,283	418	8,417	37,700
4	1,098	21,972	360	9,526	31,498

注：ラウンドの関係で合計が一致しない場合がある。

イ 輸入加糖調製品

4SYの輸入加糖調製品の売買数量は前SY比13.9%減の36万トンとなった。

これは、粉乳調製品や加糖あんにおいて、原料と砂糖の分離調達の動きがみられたことから数量が減少した。しかしながら、円安傾向が続いたことからCIF価格（課税標準価額）が上昇したため、売買差額は大幅に増加し前SY比13.2%増の95億2600万円となった。

ウ 異性化糖

4SYの異性化糖の売買は、全期間を通じて異性化糖の平均供給価格（機構の買入価格）が異性化糖標準価格（機構の実質的な売戻価格）を上回ったことから、売買は行われなかった（表7）。

3 交付金交付業務など

(1) 甘味資源作物および国内産糖の生産動向

ア てん菜・てん菜糖

4SYのてん菜は、作付面積の減少に加え、令和4年8月の降水量が平年よりもかなり多かったことなどにより収量および根中糖分の低下がみられた。その結果、てん菜の生産量は前SY比12.7%減の354万5000トン、産糖量も同12.2%減の56万2000トンとなった（表9）。

イ サトウキビ・甘しゃ糖

4SYの鹿児島県および沖縄県のサトウキビは、一部の島において台風被害、春先の長雨、梅雨明け後の干ばつなどの影響がみられた。その結果、両県を合わせた生産量は前SY比6.4%減の127万600トン、産糖量は同8.2%減の13万8600トンとなった（表10、表11）。

表9 てん菜・てん菜糖の生産動向

SY	作付面積 (ha)	単収 (トン/ha)	生産量 (千トン)	歩留り (%)	産糖量 (千トン)
令和2	56,749	68.94	3,912	16.13	631
3	57,509	70.61	4,061	15.76	640
4	55,182	64.23	3,545	15.87	562

資料：農林水産省「令和5砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第2回）」

表10 鹿児島産サトウキビ・甘しゅ糖の生産動向

SY	作付面積 (ha)	単収 (トン/ha)	生産量 (千トン)	分みつ糖原料率 (%)	歩留り (%)	産糖量 (千トン)
令和2	9,598	54.40	522	98.97	12.11	63
3	9,511	57.06	543	99.03	11.93	64
4	9,566	55.73	533	99.03	11.78	62

資料：農林水産省「令和5砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第2回）」

表11 沖縄産サトウキビ・甘しゅ糖の生産動向

SY	作付面積 (ha)	単収 (トン/ha)	生産量 (千トン)	分みつ糖原料率 (%)	歩留り (%)	産糖量 (千トン)
令和2	12,871	63.23	814	91.20	11.64	86
3	13,791	59.13	815	89.84	11.86	87
4	13,679	53.91	737	91.99	11.26	76

資料：農林水産省「令和5砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第2回）」

(2) 交付金の交付状況など

ア 甘味資源作物交付金（サトウキビのみ）

サトウキビの収穫期はおおむね12月から翌年5月ごろまでであり、製造事業者への売渡し数量に応じ

て生産者に交付金を交付している。4SYは、交付決定数量がサトウキビ生産量の減少を受け、前SY比5.0%減の120万6000トンとなり、交付決定金額は、同9.0%減の205億200万円となった（表12）。

表12 甘味資源作物交付金交付決定実績

SY	交付金単価 (円/トン)	交付決定数量 (千トン)	交付決定金額 (百万円)	(参考) 基準糖度帯
令和2	16,860	1,259	21,683	13.1度～14.3度
3	16,860	1,270	22,528	13.1度～14.3度
4	16,860	1,206	20,502	13.1度～14.3度

イ 国内産糖交付金

(ア) てん菜糖の交付状況

てん菜糖製造事業者の販売は年間を通じて行われ、販売数量に応じて交付金を交付している。

4SYは、交付決定数量が前SY比2.6%減の62万5000トンとなった。また、交付決定金額は、交付金単価の上昇を受けて同7.4%増の151億8300万円となった（表13）。

表13 てん菜糖交付金交付決定実績

SY	交付金単価 (円/トン)	交付決定数量		交付決定金額 (百万円)
		年産	数量 (千トン)	
令和2	25,192	30	2	15,703
		元	236	
		2	384	
3	21,709	元	1	14,135
		2	245	
		3	396	
4	23,788	2	1	15,183
		3	243	
		4	381	

注：令和3SYは平成30年産30トン、令和4SYは令和元年産119トンの交付決定を行っている。

(イ) 甘しや糖の交付状況

甘しや糖製造事業者が製造した粗糖は、製糖後それほど期間を置かずに精製糖メーカーに販売されるため、操業時期に対応して交付金を交付している。

4SYは、サトウキビの生産量が減少したことか

ら産糖量も減少し、交付決定数量は前SY比9.2%減の13万8000トンとなった。また、交付決定金額は、交付金単価の低下を受けて同17.8%減の78億3700万円となった（表14）。

表14 甘しや糖交付金交付決定実績

SY	交付金単価 (円/トン)	鹿児島県産		沖縄県産		合計	
		交付決定数量 (千トン)	交付金額 (百万円)	交付決定数量 (千トン)	交付金額 (百万円)	交付決定数量 (千トン)	交付金額 (百万円)
令和2	—	62	3,835	86	5,962	148	9,798
3	—	65	3,841	87	5,690	152	9,531
4	—	62	3,252	76	4,585	138	7,837

注：交付金単価は、島ごとに設定しているため省略する。

(3) 国庫納付金納付業務（てん菜）

てん菜生産者への農業の担い手に対する経営安定のための交付金の交付に要する経費の財源に充てるため、農林水産大臣からの通知に従い、4SY（発生ベース）分として、調整金収入などから105億9300万円を国庫に納付した。

4SYは前SYと比較し調整金収入が減少したため、国庫への納付金額も減少した（表15）。

表15 国庫納付金納付実績の推移

SY	国庫納付金額 (百万円)
令和2	15,123
3	13,182
4	10,593